盛岡大学における学修成果の測定・評価の実施方法の方針（アセスメント・プラン）

令和5年3月14日教授会承認

盛岡大学では、学生が入学時から卒業後までに有している卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー。以下、DPという）に求める資質・能力を把握し、大学が教育内容の点検・評価・改善や学生への学修支援を行うため、学修成果の測定・評価（以下、「アセスメント」という）を以下の方針に基づいて全学・学部レベル、学科レベル、授業科目レベルで実施する。

＜具体的な検証方法＞具体的な検証方法等は、別表１・別表２の通りである。また、全学・学部レベル、学科レベルの学修目標のアセスメントは、別表３～９の資料を用いて行う。

＜アセスメントを支える組織＞

【全学・学部レベル、学科レベル】

１．原則として、別表２に掲げた実施主体が資料の収集を行い、学修成果の把握に必要なデータを抽出し、IR室に提供する。

２．IR室は、実施主体が提供したデータを集約、管理するとともに、必要に応じてデータを統合し、教育改革推進室長に指標を提供する。なお、各学科・学科・部署の長は指標の提供をIR室に要請することができる。

３．教育改革推進室はIR室から提供された指標を検証・評価し、その結果を自己評価委員会に報告し、改善案を自己評価委員会に提案する。

４．自己評価委員会は、教育改革推進室から出された改善案を審議し、その案が適切であるならば承認し、各学部・学科・部署に案の検討を依頼する。各学部・学科・部署は案の検討結果を自己評価委員会に報告し、改善案に関する提案を行う。自己評価委員会は提案を審議し、適切であれば承認し、適切ではない場合は教育改革推進室に改善案の再検討を依頼する。

５．学部・学科・部署は、自己評価委員会が承認した改善策を実行する。

【授業科目レベル】

６．各科目の授業担当者は、担当する科目とDP・学修目標との関連が学生に理解できるようシラバスを作成し、シラバスの内容がDP・学修目標に即したものであるか、他の本学専任教員によるチェックを受ける。

７．各科目の授業担当者は、担当する授業の「成績評価」の指標を検証・評価し、教育改革推進室に報告し、教育内容の改善につなげる。教育改革推進室は、授業担当者からの報告をとりまとめた報告書を作成し、自己評価委員会に報告する。

別表１　具体的な検証方法

	全学・学部レベル	学科レベル	授業科目レベル
入学時	①入学者選抜の状況 ②アセスメントテスト	①入学者選抜の状況 ②アセスメントテスト ⑥英語外部試験【英語文化学科】	
在学時	②アセスメントテスト ⑬学生生活調査 ⑮卒業時アンケート ⑱事業所アンケート ⑲学位授与数・留年率	②アセスメントテスト ⑤ポータル DP 達成度分析 ⑦アチーブメントテスト【英語文化学科】 ⑧Speaking　test【英語文化学科】 ⑨コミュニケーション力尺度【児童教育学科】 ⑩英語・日本語・PC 各検定資格取得率【児童教育学科】 ⑪栄養士実力認定試験【栄養科学科】 ⑫模擬試験【栄養科学科】 ⑬臨地実習（臨床）の評価【栄養科学科】 ⑭学生生活調査	③シラバス第三者チェック ④成績評価
卒業時～卒業後		⑮卒業時アンケート ⑯専門職就職率【児童教育学科】 ⑰国家試験の合格者数・合格率【栄養科学科】 ⑱事業所アンケート	④成績評価（卒業研究）

別表２　アセスメント資料の評価項目、実施主体、活用方法

※直接評価：「何ができるか」を学生に提示させることで行われる評価

間接評価：「何ができると思っているか」を学生自身に答えさせることで行われる評価

資料	実施時期・方法	評価項目	評価対象	実施主体
①入学者選抜の状況（直接評価）	9～3月、各入学者選抜受験者に対する筆記試験・実技試験・調査書・面接試験、合否判定	APに掲げる資質・能力を有する者を入学者として適切に選抜しているか。	入学者選抜受験者	入試委員会
②アセスメントテスト（直接評価）	4月～10月、外部業者が作成したテストを学生が受験	・1年次生がAPで求めている資質・能力を有しているか。 ・全学、学部、学科レベルの学修目標をどの程度達成できたかをアセスメントテストの標準指標で測定	1・3年次全学生	教育改革推進室
③シラバス第三者チェック（直接評価）	3月、開講科目のシラバスを授業担当者以外の本学専任教員が閲覧	授業内容とDP・学修目標との整合性、科目別到達目標との整合性の確認	本学専任教員	教務委員会
④成績評価（直接評価）	8月・2月、全授業科目を対象に、成績分布を評価	授業科目の到達目標をどの程度達成できたか	科目履修学生	科目担当教員
⑤ポータルDP達成度分析（直接評価）	各学期末、学年・学科ごとのDP・学修目標ごとの達成度を示したグラフを評価	学科レベルの学修目標をどの程度達成できているか	全学生	教務委員会
⑥英語外部試験（直接評価）	4月に受験	英語文化学科学修目標「英語に関する知識」に関わる入学当初の能力の測定	英語文化学科1年次生	英語文化学科

⑦アチーブメントテスト（直接評価）	7月、2月に受験	英語文化学科学修目標「英語に関する知識」の達成度の測定	英語文化学科全学生	英語文化学科
⑧Speaking test（直接評価）	1年に1回受験			
⑨コミュニケーション力尺度（直接評価）	児童教育学科1・3・4年次学生が質問項目に回答（回答は強制ではない）	コミュニケーション力に関わる学修目標の達成度の測定	児童教育学科1・3・4年次学生	児童教育学科評価部会
⑩英語・日本語・PC各検定資格取得率（直接評価）	児童教育学科開講科目「社会人コミュニケーション」受講者が受験	児童教育学科学修目標「基礎語学力」「プレゼンテーション力」「情報機器活用力」の達成度の測定	児童教育学科3年次生	児童教育学科
⑪栄養士実力認定試験（直接評価）	3年次学生全員が受験	栄養科学科DP1に相当する学修目標の達成度の測定	栄養科学科3年次生	栄養科学科
⑫模擬試験（直接評価）	国家試験を受験予定の学生が受験	栄養科学科DP1・DP2に相当する学修目標の達成度の測定	栄養科学科4年次生（受験者のみ）	栄養科学科
⑬臨地実習（臨床）の評価（直接評価）	実習受け入れ先からの評価	栄養科学科DP1・DP2・DP3に相当する学修目標の達成度の測定	栄養科学科4年次生（履修者のみ）	栄養科学科
⑭学生生活調査（間接評価）	3月、進級時ガイダンス）における在学生への学修に関わる質問項目を含むアンケート調査	学修時間がどれくらいか、学修目標をどの程度達成できたと自己評価しているか	新2～4年次全学生	IR室・教育改革推進室

⑮卒業時アンケート（間接評価）	2~3 月、卒業する 4 年生への学修に関わる質問項目を含むアンケート調査	在学期間を通じて学修目標をどの程度達成できたか	4 年次生（卒業決定者）	IR 室・教育改革推進室
⑯専門職*就職率（直接評価）	10～3 月、学生からの報告による情報の収集	児童教育学科 DP3 に相当する学修目標の達成度の測定	児童教育学科 4 年次学生	児童教育学科
⑰国家試験の合格者数・合格率（直接評価）	3 月、学生からの報告による情報の収集	栄養科学科が定めている学修目標の達成が管理栄養士として求められている資質能力の水準に達しているか。	栄養科学科 4 年次学生（受験者のみ）	栄養科学科
⑱事業所アンケート（直接評価）	年 1 回、本学学生の採用実績がある事業所へのアンケート調査	・採用から 3 年を経過した卒業生についての学修目標に即した質問項目を基にした評価 ・事業所がどのような資質・能力を求めているかの調査	調査対象事業所	就職対策委員会
⑲学位授与数・留年率（直接評価）	3 月、卒業判定会議資料に基づき調査	DP に定めた資質・能力の達成度の測定	全 4 年次学生	学生部

＊専門職とは、教員・保育士を指す。

別表３　全学のＤＰ・学修目標・アセスメント

	アセスメント実施年次	1,3年次	2·4年次	4年次	卒業から3年後
	アセスメント資料	アセスメントテスト	学生生活調査	卒業時アンケート	事業所アンケート
全学DP	全学の学修目標				
DP1　広い知識と深い専門性 幅広い教養的（または基礎的）知識と、専門とする学問分野における深い専門的知識・高度な技能を有する者	A　深い専門的知識・高度な技能：専門とする学問領域の深い知識・高度な技能を有する		○	○	○
	B　幅広い学問分野の知識：幅広い学問分野の考え方を理解し、教養的（または基礎的）知識を有する		○	○	○
DP2　課題を見出し解決する実践的応用力 専門とする学問領域や社会における課題を見出し、学修で獲得した知識・技能を活用して課題を解決する思考力・判断力・表現力を有する者	C　コミュニケーション能力：日本語や特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話す能力を有する		○	○	○
	D　情報収集力・分析力：様々な情報の中から必要な情報を収集し、分析する力を有する	○	○	○	○
	E　論理的・批判的思考力：ものごとを複眼的・批判的にとらえ、筋道を立てて考えたうえで、自己の考えを他者に向けて表現する力を有する	○	○	○	○
	F　学修における課題解決力：課題を見出し、適切に解決する思考力・判断力を有する	○	○	○	○
	I　応用的な課題解決力：専門とする学問領域や社会における課題を新たに見出し、これまでの学修で獲得した知識・技能を活用して解決する力を有する	○	○	○	○
DP3　奉仕の精神を基盤とする協働・実践力 異なる価値観をもつ他者の思いや考えを理解し、受け入れながら、自己の考えを適切に表現し、他者と主体的に連携・協働して自己の役割を果たす実践力を有する者	G　対話を行う態度：異なる価値観をもつ他者の思いや考えを理解し、受け入れながら、自らの考えを適切に表現する態度を有する	○	○	○	○
	H　協調性・リーダーシップ：他者と主体的に連携・協働して行動する姿勢や、他者に方向性を示し行動を起こさせる姿勢を有する	○	○	○	○

別表３の２　全学のDP・学修目標と対応するアセスメントテストGPS-Academic測定項目

全学DP	全学の学修目標	GPS-Academic測定項目																				
		直接評価												間接評価								
		思考力				姿勢・態度								経験								
						レジリエンス			リーダーシップ			コラボレーション		自己管理			対人関係			計画・実行		
		思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	感情の制御	立ち直りの速さ	状況に応じ冷静に対応する	自ら先頭に立って対応する	未知の物に挑戦する	粘り強くやり抜く	相手の立場に立とうとする	他者と関わろうとする積極性	挑戦する経験	続ける経験	ストレスに対処する経験	多様性を受容する経験	関係性を築く経験	議論する経験	課題を設定する経験	解決策を立案する経験	実行・検証する経験
DP1　広い知識と深い専門性：幅広い教養的知識と基礎的技能、専門とする学問領域における深い専門的知識・高度な技能を有する者	A　幅広い学問分野の知識・技能：幅広い学問分野の考え方を理解し、教養的知識・基礎的技能を有する																					
	B　深い専門的知識・高度な技能：専門とする学問領域の深い知識・高度な技能を有する																					
DP2　課題を見出し解決する実践的応用力：専門とする学問領域や社会における課題を見出し、学修で獲得した知識・技能を活用して課題を解決する思考力・判断力・表現力を有する者	C　コミュニケーション能力：日本語や特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話す能力を有する																					
	D　情報収集力・分析力：様々な情報の中から必要な情報を収集し、分析する力を有する		○																			○
	E　論理的・批判的思考力：ものごとを複眼的・批判的にとらえ、筋道を立てて考えたうえで、自己の考えを他者に向けて表現する力を有する		○																○			
	F　学修における課題解決力：課題を見出し、適切に解決する思考力・判断力を有する				○															○		
DP3　奉仕の精神を基盤とする協働・実践力：異なる価値観をもつ他者の思いや考えを理解し、受け入れながら、自己の考えを適切に表現し、他者と主体的に連携・協働して自己の役割を果たす実践力を有する者	G　対話を行う態度：異なる価値観をもつ他者の思いや考えを理解し、受け入れながら、自らの考えを適切に表現する態度を有する			○								○					○	○	○			
	H　協調性・リーダーシップ：他者と主体的に連携・協働して行動する姿勢や、他者に方向性を示し行動を起こさせる姿勢を有する			○					○				○				○	○	○			
DP2　課題を見出し解決する実践的応用力（再掲）：専門とする学問領域や社会における課題を見出し、学修で獲得した知識・技能を活用して課題を解決する思考力・判断力・表現力を有する者	I　応用的な課題解決力：専門とする学問領域や社会における課題を新たに見出し、これまでの学修で獲得した知識・技能を活用して解決する力を有する	○																		○	○	○

別表４　文学部ＤＰ・学修目標・アセスメント

	アセスメント実施年次	1,3年次	2-4年次	4年次	卒業から3年後
	アセスメント資料	アセスメントテスト	学生生活調査	卒業時アンケート	事業所アンケート
文学部DP	文学部学修目標				
DP1　広い知識と深い専門性：自らが学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識や技能の修得を通じて、東北の地域に根ざしつつも多様な世界の人々や社会のあり方について理解を深めていく力を有する者	A　幅広い学問分野の知識：幅広い学問分野の考え方を理解し、教養的（または基礎的）知識を有する		○	○	○
	B　深い専門的知識・高度な技能：専門とする学問領域の深い知識・高度な技能を有する		○	○	○
DP2　国際社会に対応した実践的応用力：多様な時代や社会のあり方に広く目を向け、情報ツールを駆使しながら情報収集や情報分析をすることができ、問題を新たに発見したり、それを解決するアイデアを構想したりする思考力や判断力、並びにその成果を他者に伝達する表現力を有する者	C　コミュニケーション能力：日本語や特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話す能力を有する		○	○	○
	D　情報収集力・分析力：様々な情報の中から必要な情報を収集し、分析する力を有する	○	○	○	○
	E　論理的、批判的思考力：ものごとを複眼的・批判的にとらえ、筋道を立てて考えたうえで、自己の考えを他者に向けて表現する力を有する	○	○	○	○
	F　学修における課題解決力：課題を見出し、適切に解決する思考力・判断力を有する	○	○	○	○
	I　応用的な課題解決力：専門とする学問領域や社会における課題を新たに見出し、これまでの学修で獲得した知識・技能を活用して解決する力を有する	○	○	○	○
DP3　奉仕の精神を基盤とする高い道徳的実践力 共同生活を営む中で、他者に対する共感的な姿勢を涵養することを通じて、異なる価値観をもつ他人の思いや考えを理解し受け止めながら、自ら主体的に実践する力を有する者	G　対話を行う態度：異なる価値観をもつ他者の思いや考えを理解し、受け入れながら、自らの考えを適切に表現する態度を有する	○	○	○	○
	H　協調性・リーダーシップ：他者と主体的に連携・協働して行動する姿勢や、他者に方向性を示し行動を起こさせる姿勢を有する	○	○	○	○

別表４の２　文学部のDP・学修目標と対応するアセスメントテストGPS-Academic測定項目

文学部DP	文学部学修目標	GPS-Academic測定項目																				
		直接評価												間接評価								
		思考力				姿勢・態度								経験								
						レジリエンス			リーダーシップ			コラボレーション		自己管理			対人関係			計画・実行		
		思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	感情の制御	立ち直りの速さ	状況に応じ冷静に対応する	自ら先頭に立って対応する	未知の物に挑戦する	粘り強くやり抜く	相手の立場に立とうとする	他者と関わろうとする積極性	挑戦する経験	続ける経験	ストレスに対処する経験	多様性を受容する経験	関係性を築く経験	議論する経験	課題を設定する経験	解決策を立案する経験	実行・検証する経験
DP1　広い知識と深い専門性：自らが学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識や技能の修得を通じて、東北の地域に根ざしつつも多様な世界の人々や社会のあり方について理解を深めていく力を有する者	A　幅広い学問分野の知識・技能：幅広い学問分野の考え方を理解し、教養的知識・基礎的技能を有する																					
	B　深い専門的知識・高度な技能：専門とする学問領域の深い知識・高度な技能を有する																					
DP2　国際社会に対応した実践的応用力：多様な時代や社会のあり方に広く目を向け、情報ツールを駆使しながら情報収集や情報分析をすることができ、問題を新たに発見したり、それを解決するアイデアを構想したりする思考力や判断力、並びにその成果を他者に伝達する表現力を有する者	C　コミュニケーション能力：日本語や特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話す能力を有する																					
	D　情報収集力・分析力：様々な情報の中から必要な情報を収集し、分析する力を有する		○																			○
	E　論理的・批判的思考力：ものごとを複眼的・批判的にとらえ、筋道を立てて考えたうえで、自己の考えを他者に向けて表現する力を有する		○																○			
	F　学修における課題解決力：課題を見出し、適切に解決する思考力・判断力を有する				○															○		
	I　応用的な課題解決力：専門とする学問領域や社会における課題を新たに見出し、これまでの学修で獲得した知識・技能を活用して解決する力を有する	○			○															○	○	○
DP3　奉仕の精神を基盤とする高い道徳的実践力：共同生活を営む中で、他者に対する共感的な姿勢を涵養することを通じて、異なる価値観をもつ他人の思いや考えを理解し受け止めながら、自ら主体的に実践する力を有する者	G　対話を行う態度：異なる価値観をもつ他者の思いや考えを理解し、受け入れながら、自らの考えを適切に表現する態度を有する			○								○					○	○	○			
	H　協調性・リーダーシップ：他者と主体的に連携・協働して行動する姿勢や、他者に方向性を示し行動を起こさせる姿勢を有する			○					○				○				○	○	○			

別表５　英語文化学科ＤＰ・学修目標・アセスメント（案）

		アセスメント実施年次	入学時	各学期	各学期	各年次	1,3年次	2-4年次	4年次	卒業から3年後
		アセスメント資料	英語外部試験	ポータルＤＰ達成度分析	アチーブメントテスト	Speaking test	アセスメントテスト	学生生活調査	卒業時アンケート	事業所アンケート
英語文化学科DP	英語文化学科学修目標	全学・文学部の学修目標								
DP1　広い知識と深い専門性 英語圏の言語や文化についての専門的知識と幅広い国際教養を備え、実践的な英語コミュニケーション能力を身につけ、地域社会のみならず、グローバル情報社会に貢献する力を有する者	①専門領域に関する知識・理解：３領域に関する専門的知識・技能を有する	B　深い専門的知識・高度な技能		○				○	○	○
	②英語に関する知識・理解：英語に関する知識・技能を有する	A　幅広い学問分野の知識・技能	○	○	○	○		○	○	○
	③課題発見力：様々な情報を正しく読み解き、課題を発見する能力を有する	D　情報収集力・分析力		○			○	○	○	○
DP2　国際社会に対応した実践的応用力 世界の多様な人々や社会について、積極的な海外留学等の体験に基づいて理解を深めるとともに、自律的な思考力と判断力をもち、自分の意思を的確に表現し、行動する力を有する者	④国際社会に対応した論理的思考力：筋道を立てて考える事ができる能力を有する	E　論理的・批判的思考力		○			○	○	○	○
	⑤国際社会に対応した多面的思考力：様々な角度から物事を考えることができる能力を有する	E　論理的・批判的思考力		○			○	○	○	○
	⑥実践的課題解決力：自分が設定した問題を解決する能力を有する	F　学修における課題解決力		△			○	○	○	○
		I　応用的な課題解決力		△			○	○	○	○
	⑦プレゼンテーション力：自分の意思や考えを明確に伝えることができる能力を有する	E　論理的・批判的思考力		○			○	○	○	○
	⑧日本語および英語文章表現力：日本語および英語で自分の意思や考えを書くことができる能力を有する	C　コミュニケーション能力		○				○	○	○
DP3　奉仕の精神を基盤とする高い道徳的実践力 国内外を問わず、社会生活を営む中で、他者への共感的な考え方を身につけるとともに、主体的に多様な人々と協調して働き、よりよい社会の実現に寄与する力を有する者	⑨共感的なコミュニケーション力：言葉を通して、共感しながら他者と意思疎通ができる能力を有する	G　対話を行う態度		○			○	○	○	○
	⑩道徳的協働実践力：よりよい社会の実現に寄与するため、多様な人達と協働することができる能力を有する	H　協調性・リーダーシップ		△			○	○	○	○

別表５の２　英語文化学科のDP・学修目標と対応するアセスメントテストGPS-Academic測定項目

英語文化学科DP	英語文化学科学修目標	GPS-Academic測定項目																				
		直接評価												間接評価								
		思考力				姿勢・態度								経験								
						レジリエンス			リーダーシップ			コラボレーション		自己管理			対人関係			計画・実行		
		思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	感情の制御	立ち直りの速さ	状況に応じ冷静に対応する	自ら先頭に立って対応する	未知の物に挑戦する	粘り強くやり抜く	相手の立場に立とうとする	他者と関わろうとする積極性	挑戦する経験	続ける経験	ストレスに対処する経験	多様性を受容する経験	関係性を築く経験	議論する経験	課題を設定する経験	解決策を立案する経験	実行・検証する経験
DP1　広い知識と深い専門性：自らが学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識や技能の修得を通じて、東北の地域に根ざしつつも多様な世界の人々や社会のあり方について理解を深めていく力を有する者	①専門領域に関する知識・理解：３領域に関する専門的知識・技能を理解していること																					
	②英語に関する知識・理解：英語に関する知識・技能を理解していること																					
	③課題発見力：様々な情報を正しく読み解き、課題を発見することができる能力を有する				○															○		
DP2　国際社会に対応した実践的応用力：多様な時代や社会のあり方に広く目を向け、情報ツールを駆使しながら情報収集や情報分析をすることができ、問題を新たに発見したり、それを解決するアイデアを構想したりする思考力や判断力、並びにその成果を他者に伝達する表現力を有する者	④国際社会に対応した論理的思考力：筋道を立てて考える事ができる能力を有する		○																			
	⑤国際社会に対応した多面的思考力：様々な角度から物事を考えることができる能力を有する			○																		○
	⑥実践的課題解決力：自分が設定した問題を解決する能力を有する	○																		○	○	○
	⑦プレゼンテーション力：自分の意思や考えを明確に伝えることができる能力を有する																		○			
	⑧日本語および英語文章表現力：日本語および英語で自分の意思や考えを書くことができる能力を有する																					
DP3：奉仕の精神を基盤とする高い道徳的実践力：共同生活を営む中で、他者に対する共感的な姿勢を涵養することを通じて、異なる価値観をもつ他人の思いや考えを理解し受け止めながら、自ら主体的に実践する力を有する者	⑨共感的なコミュニケーション力：言葉を通して、共感しながら他者と意思疎通ができる能力を有する			○								○					○	○	○			
	⑩道徳的協働実践力：よりよい社会の実現に寄与するため、多様な人達と協働することができる能力を有する			○					○				○				○	○	○			

別表6　日本文学科DP・学修目標・アセスメント

		アセスメント実施年次	各学期	1,3年次	2~4年次	4年次	卒業から3年後
		アセスメント資料	ポータルＤＰ達成度分析	アセスメントテスト	学生生活調査	卒業時アンケート	事業所アンケート
日本文学科DP	日本文学科学修目標	全学・文学部の学修目標					
DP1　広い知識と深い専門性：時代を超えて人々の心を伝える日本の言語・文学・文化を世界的視点と地域的視点から幅広く理解し、それぞれの領域における課題を総合的に捉え直すとともに、これからの社会に対応できる広い知識と深い専門性を有する者	①深い専門的知識、高度な技能：日本の言語・文学・文化についての深い専門的知識・高度な技能を有する	B　深い専門的知識・高度な技能	○		○	○	○
	②幅広い学問分野の知識・教養：幅広い学問分野の考え方を理解し、教養的知識を有する	A　幅広い学問分野の知識・技能 C　コミュニケーション能力（外国語）	○		○	○	○
	③日本語を用いたコミュニケーション力：日本語を読み、書き、聞き、話す能力を有する	C　コミュニケーション能力	○		○	○	○
	④学修における課題の発見力と解決力：課題を見出し、適切に解決する思考力・判断力を有する	F　学修における課題解決力	○	○	○	○	○
DP2　国際社会に対応した実践的応用力：国際社会における日本独自の言語・文学・文化のあり方を考察するうえで必要な、思考力・判断力・表現力を身につけるとともに、これからの社会を主体的に生き抜くために、国際社会に対応した実践的応用力を有する者	⑤情報収集力と分析力：様々な情報の中から必要な情報を収集し、分析する力を有する	D　情報収集力・分析力	○	○	○	○	○
	⑥論理的、批判的思考力：ものごとを批判的にとらえ、筋道を立てて考えたうえで、自分の考えを表現する力を有する	E　論理的・批判的思考力	○	○	○	○	○
	⑦応用的な課題解決力：専門とする学問分野や社会における課題を、これまでの学修で獲得した知識・技能を活用して解決する力を有する	I　応用的な課題解決力	△	○	○	○	○
DP3　奉仕の精神を基盤とする高い道徳的実践力：日本の言語・文学・文化を通した学びをもとに、変化の激しい社会の中で主体性を発揮し、多様な価値観をもつ人々と協力して学ぶ能力を身につけるとともに、奉仕の精神を基盤とする高い道徳的実践力を有する者	⑧対人親和力：異なる価値観をもつ他者の思いや考えを理解を受け入れながら、自分の考えを適切に表現する態度を有する	G　対話を行う態度	○	○	○	○	○
	⑨対人協働力：他者と主体的に連携・協働して行動する姿勢を有する。	H　協調性・リーダーシップ	△	○	○	○	○

別表６の２　日本文学科のDP・学修目標と対応するアセスメントテストGPS-Academic測定項目

日本文学科DP	日本文学科学修目標	GPS-Academic測定項目																				
		直接評価												間接評価								
		思考力				姿勢・態度								経験								
						レジリエンス			リーダーシップ			コラボレーション		自己管理			対人関係			計画・実行		
		思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	感情の制御	立ち直りの速さ	状況に応じ冷静に対応する	自ら先頭に立って対応する	未知の物に挑戦する	粘り強くやり抜く	相手の立場に立とうとする	他者と関わろうとする積極性	挑戦する経験	続ける経験	ストレスに対処する経験	多様性を受容する経験	関係性を築く経験	議論する経験	課題を設定する経験	解決策を立案する経験	実行・検証する経験
DP1　広い知識と深い専門性：時代を超えて人々の心を伝える日本の言語・文学・文化を世界的視点と地域的視点から幅広く理解し、それぞれの領域における課題を総合的に捉え直すとともに、これからの社会に対応できる広い知識と深い専門性を有する者	①深い専門的知識、高度な技能：日本の言語・文学・文化についての深い専門的知識・高度な技能を有する																					
	②幅広い学問分野の知識・教養：幅広い学問分野の考え方を理解し、教養的知識を有する																					
	③日本語を用いたコミュニケーション力：日本語を読み、書き、聞き、話す能力を有する																					
	④学修における課題の発見力と解決力：課題を見出し、適切に解決する思考力・判断力を有する				○															○		
DP2　国際社会に対応した実践的応用力：国際社会における日本独自の言語・文学・文化のあり方を考察するうえで必要な、思考力・判断力・表現力を身につけるとともに、これからの社会を主体的に生き抜くために、国際社会に対応した実践的応用力を有する者	⑤情報収集力と分析力：様々な情報の中から必要な情報を収集し、分析する力を有する		○																			○
	⑥論理的・批判的思考力：ものごとを批判的にとらえ、筋道を立てて考えたうえで、自分の考えを表現する力を有する		○																			
	⑦応用的な課題解決力：専門とする学問分野や社会における課題を、これまでの学修で獲得した知識・技能を活用して解決する力を有する	○																		○	○	○
DP3　奉仕の精神を基盤とする高い道徳的実践力：日本の言語・文学・文化を通した学びをもとに、変化の激しい社会の中で主体性を発揮し、多様な価値観をもつ人々と協力して学ぶ能力を身につけるとともに、奉仕の精神を基盤とする高い道徳的実践力を有する者	⑧対人親和力：異なる価値観をもつ他者の思いや考えを理解し、受け入れながら、自分の考えを適切に表現する態度を有する			○								○					○	○	○			
	⑨対人協働力：他者と主体的に連携・協働して行動する姿勢を有する。			○					○				○				○	○	○			

別表７　社会文化学科ＤＰ・学修目標・アセスメント

		アセスメント実施年次	各学期	1,3年次	2~4年次	4年次	卒業から3年後
		アセスメント資料	ポータルＤＰ達成度分析	アセスメントテスト	学生生活調査	卒業時アンケート	事業所アンケート
社会文化学科DP	社会文化学科学修目標	全学・文学部の学修目標					
DP1　広い知識と深い専門性：文化・社会・歴史の各領域に関する総合的な知見を身につけ、それらの学問領域を今日的な視点から領域横断的に捉え直すとともに、自らの専門領域に関する深い見識を身につけることを通じて、これからの社会に自律的に対応できる知識や技能を有する者	①深い専門的知識：専門とする学問領域の深い知識を有する	B　深い専門的知識・高度な技能	○		○	○	○
	②幅広い学問分野の知識：幅広い学問分野の考え方を理解し、教養的知識を有する	A　幅広い学問分野の知識・技能	○		○	○	○
DP2 国際社会に対応した実践的応用力：多様な時代や社会のあり方に世界的視点と地域的視点とから成る複眼的な眼差しを向け、多様な情報ツールを駆使しつつ問題を新たに発見するとともに、それを解決するアイデアを構想する思考力や判断力、並びにその成果を他者に伝達する表現力を有する者	③情報収集力・分析力：様々な情報の中から必要な情報を収集し、分析する力を有する	D　情報収集力・分析力	○	○	○	○	○
	④論理的、批判的思考力：ものごとを複眼的・批判的にとらえ、筋道を立てて考えたうえで、自己の考えを他者に向けて表現する力を有する	E　論理的・批判的思考力 C　コミュニケーション能力	○	○	○	○	○
	⑤学修における課題解決力：課題を見出し、適切に解決する思考力・判断力を有する	F　学修における課題解決力	○	○	○	○	○
	⑥応用的な課題解決力：専門とする学問領域や社会における課題を新たに見出し、これまでの学修で獲得した知識を活用して解決する力を有する	I　応用的な課題解決力	△	○	○	○	○
DP3 奉仕の精神を基盤とする高い道徳的実践力：大学生活のみならず、国際社会並びに地域社会の人々との交流を深める中で、他者に対する共感的な姿勢を涵養し、異なる価値観をもつ他人の思いや考えを理解し受け止めながら、自ら主体的に実践を展開する力を有する者	⑦対話を行う態度：異なる価値観をもつ他者の思いや考えを理解し、受け入れながら、自らの考えを適切に表現する態度を有する	G　対話を行う態度	○	○	○	○	○
	⑧協調性・リーダーシップ：他者と主体的に連携・協働して行動する姿勢や、他者に方向性を示し行動を起こさせる姿勢を有する	H　協調性・リーダーシップ	△	○	○	○	○

別表７の２　社会文化学科のDP・学修目標と対応するアセスメントテストGPS-Academic測定項目

社会文化学科DP	社会文化学科 学修目標	GPS-Academic測定項目																				
		直接評価												間接評価								
		思考力				姿勢・態度								経験								
						レジリエンス			リーダーシップ			コラボレーション		自己管理			対人関係			計画・実行		
		思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	感情の制御	立ち直りの速さ	状況に応じ冷静に対応する	自ら先頭に立って対応する	未知の物に挑戦する	粘り強くやり抜く	相手の立場に立とうとする	他者と関わろうとする積極性	挑戦する経験	続ける経験	ストレスに対処する経験	多様性を受容する経験	関係性を築く経験	議論する経験	課題を設定する経験	解決策を立案する経験	実行・検証する経験
DP1　広い知識と深い専門性：文化・社会・歴史の各領域に関する総合的な知見を身につけ、それらの学問領域を今日的な視点から領域横断的に捉え直すとともに、自らの専門領域に関する深い見識を身につけることを通じて、これからの社会に自律的に対応できる知識や技能を有する者	①深い専門的知識：専門とする学問領域の深い知識を有する																					
	②幅広い学問分野の知識：幅広い学問分野の考え方を理解し、教養的知識を有する																					
DP2　国際社会に対応した実践的応用力：多様な時代や社会のあり方に世界的視点と地域的視点とから成る複眼的な眼差しを向け、多様な情報ツールを駆使しつつ問題を新たに発見するとともに、それを解決するアイデアを構想する思考力や判断力、並びにその成果を他者に伝達する表現力を有する者	③情報収集力・分析力：様々な情報の中から必要な情報を収集し、分析する力を有する		○																			○
	④論理的、批判的思考力：ものごとを複眼的・批判的にとらえ、筋道を立てて考えたうえで、自己の考えを他者に向けて表現する力を有する		○																			
	⑤学修における課題解決力：課題を見出し、適切に解決する思考力・判断力を有する				○															○	○	
	⑥応用的な課題解決力：専門とする学問領域や社会における課題を新たに見出し、これまでの学修で獲得した知識を活用して解決する力を有する	○																		○	○	○
DP3　奉仕の精神を基盤とする高い道徳的実践力：大学生活のみならず、国際社会並びに地域社会の人々との交流を深める中で、他者に対する共感的な姿勢を涵養し、異なる価値観をもつ他人の思いや考えを理解し受け止めながら、自ら主体的に実践を展開する力を有する者	⑦対話を行う態度：異なる価値観をもつ他者の思いや考えを理解し、受け入れながら、自らの考えを適切に表現する態度を有する			○								○					○	○	○			
	⑧協調性・リーダーシップ：他者と主体的に連携・協働して行動する姿勢や、他者に方向性を示し行動を起こさせる姿勢を有する			○					○				○				○	○	○			

別表８　児童教育学科　学修目標・アセスメント

児童教育学科DP	児童教育学科学修目標	全学・文学部の学修目標	ポータルＤＰ達成度分析	コミュニケーション力尺度	アセスメントテスト	資格取得率	専門職就職率	学生生活調査	卒業時アンケート	事業所アンケート
		アセスメント実施年次	各学期	1，3，4年次	1，3年次	3年次	4年次	2－4年次	4年次	卒業から3年後
		アセスメント資料								
DP1　幅広い専門的教養 教員・保育士に必要な豊かで幅広い専門的教養を備え、多様で複雑化している現代の教育・保育を総合的な視点で捉える力を有する者	①基礎語学力：国際社会を積極的に生きるために必要な能力を有する	C　コミュニケーション能力	○			○		○	△	○
	②将来設計力：将来設計に必要な知識、情報社会に対応できる能力、健康科学に関する知識と実践能力を有する	A　幅広い学問分野の知識・技能	○					○	△	○
	③専門基礎力：建学の精神、各専攻分野を学ぶ上で共通する基礎的な能力、専攻分野以外の基礎的知識を有する	A　幅広い学問分野の知識・技能 G　対話を行う態度	○					○	△	○
	④教養応用力：教養的知識を基礎に現代の教育・保育を総合的に捉える力を有する	A　幅広い学問分野の知識・技能	○					○	△	○
DP2　教育・保育基礎力 教員・保育士の基礎となる課題発見力、論理的・批判的・内省的思考力、問題解決力等の基礎力を有する者	⑤課題発見・解決力：教員・保育士の基礎となる課題発見力・問題解決力を有する	F　学修における課題解決力	○		○			○	△	○
	⑥芸術的表現力：教員・保育士の基礎となる創造力・発想力・芸術的表現力を有する	B　深い専門的知識・高度な技能	○					○	△	○
	⑦情報リテラシー：教員・保育士の基礎となる情報リテラシーを有する	D　情報収集力・分析力	○		○			○	△	○
	⑧思考力：教員・保育士の基礎となる論理的・批判的・内省的思考力を有する	E　論理的・批判的思考力	○		○			○	△	○
	⑨プレゼンテーション力：教員・保育士の基礎となるプレゼンテーション力を有する	C　コミュニケーション能力	○			○		○	△	○
DP3　教育・保育実践力 教員・保育士として必要な教科及び領域に関する知識と技能を身につけ、それらを実践する力を有する者	⑩授業・保育実践力：教員・保育士として必要な授業・保育実践力を有する	B　深い専門的知識・高度な技能 I　応用的な課題解決力	○				○	○	△	○
	⑪使命感・責任感：教員・保育士として必要な使命感・責任感を有する	B　深い専門的知識・高度な技能	○				○	○	△	○
	⑫知識と技能（教科と領域）：教員・保育士として必要な教科・領域に関する知識と技能を有する	B　深い専門的知識・高度な技能	○				○	○	△	○
	⑬保育観：教員・保育士として必要な保育・幼児教育に関する知識と技能及び保育観を有する	B　深い専門的知識・高度な技能	○				○	○	△	○
	⑭教育観：教員・保育士として必要な教育に関する基礎理論と教育観を有する	B　深い専門的知識・高度な技能	○				○	○	△	○
	⑮知識と技能（心理学）：教員・保育士として必要な心理学の知識と技能を有する	B　深い専門的知識・高度な技能	○				○	○	△	○
	⑯対象者の理解・対応：教員・保育士として必要な幼児・児童・保護者に対する理解力と対応力を有する	B　深い専門的知識・高度な技能	○					○	△	○
	⑰学級集団形成力：教員・保育士として必要な学級集団形成の基礎力を有する	B　深い専門的知識・高度な技能	○					○	△	○
	⑱情報機器活用力：教員・保育士として必要な教材・情報機器の活用する力を有する	B　深い専門的知識・高度な技能	○			○		○	△	○
DP4　対人関係能力 教員・保育士として必要な共感的理解力、自己表現力、集団指導力、チームワーク力等の対人関係能力を有する者	⑲共感的理解力：教員・保育士として必要な共感的理解力を有する	C　コミュニケーション能力 G　対話を行う態度	○	△	○			○	△	○
	⑳自己表現力：教員・保育士として必要な自己表現力を有する	C　コミュニケーション能力 G　対話を行う態度	○	△	○			○	△	○
	21　集団指導力：教員・保育士として必要な集団指導力を有する	C　コミュニケーション能力 H　協調性・リーダーシップ	○		○			○	△	○
	22　チームワーク力：教員・保育士として必要なチームワーク力を有する	C　コミュニケーション能力 H　協調性・リーダーシップ	○	△	○			○	△	○

別表８の２　児童教育学科のDP・学修目標と対応するアセスメントテストGPS-Academic測定項目

児童教育学科DP	児童教育学科学修目標	GPS-Academic測定項目																				
		直接評価												間接評価								
		思考力				姿勢・態度								経験								
						レジリエンス			リーダーシップ			コラボレーション		自己管理			対人関係			計画・実行		
		思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	感情の制御	立ち直りの速さ	状況に応じ冷静に対応する	自ら先頭に立って対応する	未知の物に挑戦する	粘り強くやり抜く	相手の立場に立とうとする	他者と関わろうとする積極性	挑戦する経験	続ける経験	ストレスに対処する経験	多様性を受容する経験	関係性を築く経験	議論する経験	課題を設定する経験	解決策を立案する経験	実行・検証する経験
DP2　教育・保育基礎力 教員・保育士の基礎となる課題発見力、論理的・批判的・内省的思考力、問題解決力等の基礎力を有する者	⑤課題発見・解決力：教員・保育士の基礎となる課題発見力・問題解決力を有する				○															○	○	○
	⑦情報リテラシー：教員・保育士の基礎となる情報リテラシを有する		○		○																	
	⑧思考力：教員・保育士の基礎となる論理的・批判的・内省的思考力を有する		○																			
DP4 対人関係能力 教員・保育士として必要な共感的理解力、自己表現力、集団指導力、チームワーク力等の対人関係能力を有する者	⑲共感的理解力：教員・保育士として必要な共感的理解力を有する			○								○					○	○	○			
	⑳自己表現力：教員・保育士として必要な自己表現力を有する			○									○				○	○	○			
	21　集団指導力：教員・保育士として必要な集団指導力を有する			○					○			○	○				○	○	○			
	22　チームワーク力：教員・保育士として必要なチームワーク力を有する			○								○	○				○	○	○			

別表９　栄養科学科ＤＰ・学修目標・アセスメント

		アセスメント実施年次	各学期	1,3年次	3年次	4年次（履修者のみ）	4年次（受験者のみ）	4年次（受験者のみ）	2-4年次	4年次	卒業から3年後
		アセスメント資料	ポータルＤＰ達成度分析	アセスメントテスト	栄養士実力認定試験の評価	臨地実習（臨床）の評価	模擬試験の評価	国家試験の合格者数および合格率	学生生活調査	卒業時アンケート	事業所アンケート
栄養科学科DP	栄養科学科学修目標	全学の学修目標									
DP1　専門的知識や技能の活用力：人間栄養学に基づいた健康・栄養・食に関する専門的知識と技能を修得し、能動的に課題を探求しながら、積極的に活用することのできる力を有する者	①深い専門的知識、高度な技能：健康・栄養・食に関する深い知識・高度な技能を有する	B　深い専門的知識、高度な技能	○		○	○	○	○	○	○	○
	②情報収集力・分析力：様々な情報の中から必要な情報を収集し、分析する力を有する	D　情報収集力・分析力	○	○		○	○	○	○	○	○
	③学修における課題解決力：課題を見出し、適切に解決する思考力・判断力を有する	F　学修における課題解決力	○	○	○	○	○	○	○	○	○
DP2　社会に対応した実践的応用力：社会・環境の変化や地域の特性を踏まえたうえで健康・栄養・食に関する課題を捉え、専門的知識と技能を駆使することにより、栄養管理・指導を実践する力を有する者	④応用的な課題解決力：健康・栄養・食に関する課題を、これまでの学修で獲得した知識・技能を活用して解決する力を有する	I　応用的な課題解決力	△	○		○	○	○	○	○	○
	⑤論理的、批判的思考力：ものごとを複眼的・批判的にとらえ、筋道を立てて考えたうえで、自分の考えを表現する力を有する	E　論理的、批判的思考力	○	○		○	○	○	○	○	○
DP3　コミュニケーション力を基盤とする協働・実践力：健康・栄養・食に関する知識や技能を活用することのできるコミュニケーション能力を培い、他職種と連携・協働して役割を果たすことができる実践力を有する者	⑥対話を行う態度：異なる価値観をもつ他者の思いや考えを理解し、受け入れながら、自分の考えを適切に表現する態度を有する	G　対話を行う態度	○	○		○			○	○	○
		A　幅広い学問分野の知識・技能									
		C　コミュニケーション能力									
	⑦対人協働力：他者と連携・協働して行動する姿勢を有する	H　協調性・リーダーシップ		○		○			○	○	○

別表９の２　栄養科学科のDP・学修目標と対応するアセスメントテストGPS-Academic測定項目

栄養科学科DP	栄養科学科学修目標	GPS-Academic測定項目																				
		直接評価												間接評価								
		思考力				姿勢・態度								経験								
						レジリエンス			リーダーシップ			コラボレーション		自己管理			対人関係			計画・実行		
		思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	感情の制御	立ち直りの速さ	状況に応じ冷静に対応する	自ら先頭に立って対応する	未知の物に挑戦する	粘り強くやり抜く	相手の立場に立とうとする	他者と関わろうとする積極性	挑戦する経験	続ける経験	ストレスに対処する経験	多様性を受容する経験	関係性を築く経験	議論する経験	課題を設定する経験	解決策を立案する経験	実行・検証する経験
DP1　専門的知識や技能の活用力：人間栄養学に基づいた健康・栄養・食に関する専門的知識と技能を修得し、能動的に課題を探求しながら、積極的に活用することのできる力を有する者	①深い専門的知識、高度な技能：健康・栄養・食に関する深い知識・高度な技能を有する																					
	②情報収集力・分析力：様々な情報の中から必要な情報を収集し、分析する力を有する		○																			○
	③学修における課題解決力：課題を見出し、適切に解決する思考力・判断力を有する				○															○	○	
DP2　社会に対応した実践的応用力：社会・環境の変化や地域の特性を踏まえたうえで健康・栄養・食に関する課題を捉え、専門的知識と技能を駆使することにより、栄養管理・指導を実践する力を有する者	④応用的な課題解決力：健康・栄養・食に関する課題を、これまでの学修で獲得した知識・技能を活用して解決する力を有する	○																		○	○	○
	⑤論理的・批判的思考力：ものごとを複眼的・批判的にとらえ、筋道を立てて考えたうえで、自分の考えを表現する力を有する		○																			
DP3　コミュニケーション力を基盤とする協働・実践力：健康・栄養・食に関する知識や技能を活用することのできるコミュニケーション能力を培い、他職種と連携・協働して役割を果たすことができる実践力を有する者	⑥対話を行う態度：異なる価値観をもつ他者の思いや考えを理解し、受け入れながら、自分の考えを適切に表現する態度を有する			○								○					○	○	○			
	⑦対人協働力：他者と連携・協働して行動する姿勢を有する			○					○				○				○	○	○			